

J-STAGE NEWS

1-21VCE J-STAGEニュース

電子ジャーナルの最新情報をおとどけるJ-STAGE機関紙

No. 43

J-STAGE

Online ISSN: 2434-4311

2020年7月1日発行

国立研究開発法人
科学技術振興機構

目次：

- J-STAGE Data利用 1
状況
- J-STAGE推奨基準 2
(改定版)を公開しま
した
- J-STAGEのコロナ 2
感染対応
- J-STAGEジャーナル 3
コンサルティング
2019年度実施報告
- 【シリーズ学会訪問】 4
～情報科学技術協会～
- J-STAGE公開・ア 5
クセス状況
- お知らせ、届いてい 5
ますか？
- My J-STAGEの便利 6
な機能について
- 編集後記 6

J-STAGE Data利用状況

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.1>

J-STAGEニュースの前号（2020年1月発行）で運用準備状況を報告した「J-STAGE Data」ですが、2020年3月16日、試行運用を開始いたしました。今号では、J-STAGE Dataの利用状況をご報告します。

現在は、『デジタルアーカイブ学会誌』がJ-STAGE Dataのパイロットジャーナル第一号として、電子付録9件をJ-STAGE Dataに登載しています。J-STAGE Data利用前の2020年2月の電子付録9件のダウンロード数と比較すると、2020年4月のJ-STAGE Dataダウンロード数は10倍以上となっています（グラフ参照）。

J-STAGE Dataの詳細につきましては、「J-STAGE Dataリリースノート」^注をご参照ください。また、是非一度J-STAGE Dataへアクセスしてみてください。

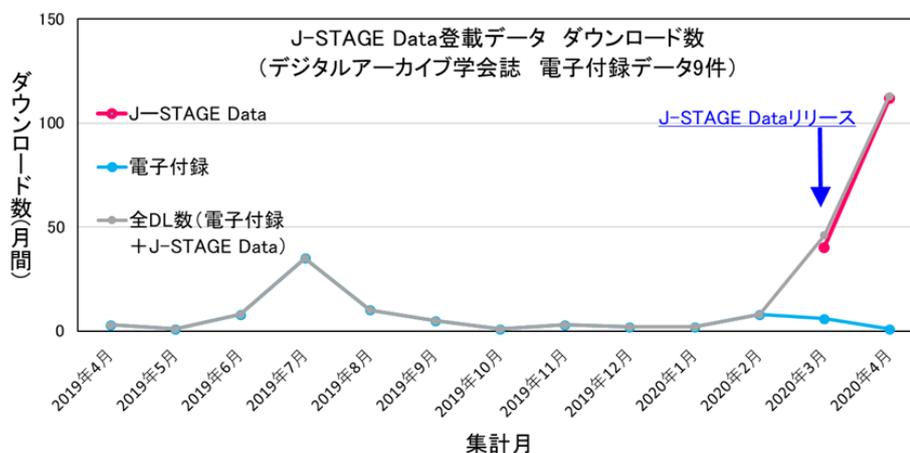


J-STAGE Data TOPページ画面

ご興味・ご質問のある方は、リリースノートに記載の問い合わせ先にご連絡ください。

注) J-STAGE Dataリリースノート。

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_release_jstage-data.pdf



J-STAGE推奨基準(改定版)を公開しました

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.2>

1. 背景

J-STAGEでは、平成20年に電子ジャーナル編集・発行の国際的基準や慣行に合致した編集基準および掲載・公開基準を作成し、発行機関(学協会等)に推奨基準として示してきましたが、初版から10年が経過し、今般の社会情勢も踏まえて大幅な見直しを行いました。令和2年2月にJ-STAGEのWebサイトで意見を募集し、全面改定しました。

2. 主な改定内容

本推奨基準の目的は、科学技術刊行物(ジャーナル等)とその執筆された記事(論文等)をJ-STAGEに掲載し広く公開するための編集ルールと、掲載・公開することができる資料や記事、データの種類について定めることとしています。著者に対するいわゆる論文の書き方や執筆の際のルール、および科学者に対する行動規範等は含めません。

J-STAGEの推奨基準は、「掲載・公開基準」「編集基準」の2つの基準で構成されています。「掲載・公開基準」には掲載・公開の対象記事、掲載可能な版および形式、掲載にあたり登録すべき資料情報など、「編集基準」には資料情報、発行年、巻・号、記事の基本書誌情報、引用文献情報の編集、記事(書誌情報、本文)データの訂正・修正、撤回などについて、それぞれ記載されています。今回の改定によって新たに追記・修正された主な内容は以下のとおりです。

1) 掲載・公開基準

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/j-stage_criteria_for_publication_1.0.pdf

- ・掲載・公開すべき垂直関係の刊行物(誌名変更前身誌、派生誌、廃刊誌、休刊誌等の公開)

- ・掲載・公開すべき水平関係の刊行物(二次出版、翻訳版等の公開)
- ・掲載・公開すべき記事の版(著者原稿版、査読済版、等の扱い)
- ・発行機関が解散した場合の公開
- ・J-STAGEに掲載可能な形式および版について

2) 編集基準

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/j-stage_suishou_kijun.pdf

- ・記事データの訂正・修正等について
- ・ORCIDについて
- ・発行機関名、著者名の表記について
- ・引用文献の書き方について
- ・プライバシーポリシー、CCライセンス、オープンアクセスについて

3) その他

J-STAGEではオープンアクセスを推進する立場から、エンバーゴあるいは認証は設けないことを推奨しています。今回この観点から、やむを得ずエンバーゴを設ける場合は、エンバーゴ、認証と合わせて、原則最大24か月以内とすることを推奨いたします。また営利目的団体でも、J-STAGE上でオープンアクセスまたはフリーアクセスとすれば、J-STAGE掲載の対象になることを明記化しています。



J-STAGEのコロナ感染対応

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.3>

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、研究開発に携わる研究者の方々のみならず、国民も感染症関連論文を速やかに閲覧したいという要望が高まっていると考えられます。このような状況に鑑みJ-STAGEでは、認証公開を行っている論文の一部を、分野を問わず一時的にフリー公開とする認証解除の支援を実施しています。

感染症に関する研究論文等を広く、かつ迅速に研究者や国民に情報提供することにより、抗体の開発などコロナ感染研究促進の一助となるとともに、一般市民が感染症に関する知識を得ることで感染防止対策に有効になることも期待されます。ご協力いただいております下記発行機関様には、厚く御礼申し上げます。

- ・国際光治療学会「LASER THERAPY」
- ・日本リハビリテーション工学協会「リハビリテーション・エンジニアリング」

- ・日本透析医学会「日本透析医学会雑誌」
- ・記録管理学会「レコード・マネジメント」
- ・日本エアロゾル学会「エアロゾル研究」
- ・情報科学技術協会「情報の科学と技術」
- ・日本冷凍空調学会「日本冷凍空調学会論文集」
- ・東欧史研究会「東欧史研究」
- ・日本電気泳動学会「電気泳動」

(令和2年7月1日現在)



J-STAGE ジャーナルコンサルティング 2019年度実施報告

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.4>

J-STAGEでは、プラットフォームの改善や機能強化のみに留まらず、登載誌の発行機関との連携を深め、共にジャーナルの質向上に取り組むことを通じて国際発信力を強化することも目指しています。この取り組みの一環として、「ジャーナルコンサルティング（以下、本プロジェクト）」を2017年度よりパイロットプロジェクトとして開始し、ジャーナル出版の国際動向に詳しい専門家によるコンサルティングを提供するなど、課題解決に向けた支援を行っています。

2019年度は以下の英文誌5誌を対象に本プロジェクトを実施しました。

日本生体医工学会「Advanced Biomedical Engineering」
自動車技術会「International Journal of Automotive Engineering」

日本農業気象学会「Journal of Agricultural Meteorology」
日本環境化学会「Environmental Monitoring and Contaminants Research」（2020年10月創刊予定）

日本プロテオーム学会「Journal of Proteome Data and Methods」（2019年9月創刊）

本プロジェクトでは初めに、JSTが委託したコンサルティング機関が現状診断を通じ、改善すべき課題の明確化を行いました。その後、改善の優先順位を付け、コンサルタントと共に実施計画を策定し、約9か月にわたり改善に取り組みました。ここでは、参加ジャーナルすべてにおいて共通の課題であった、ジャーナルの基盤となるInstructions to Authors（ITA）等の各種ドキュメントの整備（以下、基盤整備）を行いました。その結果、オープンアクセス（OA）化における必須条件である著作権とクリエイティブ・コモンズ（CC）ライセンスに対する理解が深まり、3誌においてOA誌への移行、およびOA誌のホワイトリストとして国際的に認知されているDirectory of Open Access Journal（DOAJ）への申請が可能となりました。さらに、2018年度から継続で本プロジェクトに参加し創刊準備を進めてきた日本プロテオーム学会のOA誌「Journal of Proteome Data and Methods」が、J-STAGEで最初のデータジャーナルとして創刊に至りました。

2019年度の実施成果は、2020年3月の第3回J-STAGEセミナーにて発表いただく予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により開催は中止となりました。代替手段として、参加ジャーナルの皆様のご協力のもと、講演を予定していたスライド資料を下記のとおり公開しています。

日本生体医工学会「（公社）日本生体医工学会 Advanced Biomedical Engineering (ABE)」https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_20200313_Seminar01.pdf

自動車技術会「International Journal of Automotive Engineering コンサルティング報告」https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_20200313_Seminar02.pdf

日本農業気象学会「Journal of Agricultural Meteorology (JAM)の国際誌としてのプレゼンス向上の取り組み Journal Consultingを受けて」https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_20200313_Seminar03.pdf

日本環境化学会「EMCR Present status toward its launching and the plan」https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_20200313_Seminar04.pdf

日本プロテオーム学会「プロテオミクスデータジャーナルの創刊 —Journal of Proteome Data and Methods—」https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_20200313_Seminar05.pdf

また、一部の講演につきましては講演者による発表動画をJ-STAGE YouTubeチャンネルで公開しています。

J-STAGE YouTubeチャンネル：

<https://www.youtube.com/channel/UCHvUqXw25fzlyMjQWYxkVCQ>

日本環境化学会：

https://www.youtube.com/watch?v=172bs_kL6Hw

自動車技術会：

<https://www.youtube.com/watch?v=N3EnisCniRc>

上記5誌へのコンサルティングに加え、2019年度は新たな取り組みとして、「ジャーナルが抱えている現状の理解と質向上のための基盤整備」をテーマとしたミニセミナーを8月と11月に開催しました。参加した計16誌（英文誌11誌、和文誌5誌）に対し、OA、CCライセンス、DOAJ収録要件などに関するレクチャーと、コンサルティング機関およびJSTによるジャーナル診断結果の提供を行いました。

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/J-STAGE_NEWS_20th_anniversary.pdf#page=11

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/J-STAGE_NEWS_NO42.pdf#page=6

2019年度の本プロジェクトでは、ITA等のドキュメント類の改善や二次利用条件の明示（CCライセンス等）、編集委員会の国際化などジャーナルの基盤となる部分の整備について特に重点的に取り組みが行われました。このような基盤整備が達成されたジャーナルは、その次のステップとして、信頼されるデータベースやディレクトリへの掲載を目指すことで、中長期的には海外からの投稿数増加や国際的なプレゼンス向上につながると考えられます。2020年度はこうした段階にあるOA誌を主な対象として、DOAJへの掲載促進をテーマに据えたジャーナルコンサルティングを実施いたします。また、昨年度に引き続き、OAやCCライセンスに関する基礎的な情報を提供するミニセミナーも下半期に実施予定です。

J-STAGEは今後も学協会との連携を深め、本プロジェクトを通じて登載誌の国際発信力強化の一助となるよう努めてまいります。



講演動画撮影にご協力いただきました（自動車技術会様）



【シリーズ学会訪問】～情報科学技術協会～

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.5>

今回の「学会訪問」は、情報科学技術協会（INFOSTA:インフォスタ）で発行している「情報の科学と技術」の会誌経営委員会の小野寺夏生委員長、会誌編集委員会の南山泰之委員長取材しました。INFOSTAは1950年の発足以来、時代の変化に対応しながらインフォプロ（Information Professional：情報専門家）の皆さんの自己研鑽と交流の場を提供し、活動を続けています。会員相互の協力により情報の生産・管理・利用に関する理論および技術の調査、研究開発を進めるとともに、これらの普及に努めることを目的とされています。

●「情報の科学と技術」の特徴についてお聞かせください

本誌は特集テーマを中心とした構成で、主として企業の情報担当者・サーチャー、大学図書館員、図書館情報学分野の研究者、専門図書館員向けの記事を掲載し、情報科学技術やリテラシーの普及・向上を図るとともに、会員相互の自由なコミュニケーションの場を提供することを目的としています。事例報告や体験記、集会報告等も積極的に掲載しており、これらの記事は実務家にとって貴重な情報源となっています。また、知財情報の検索に関する特集・投稿記事は、当該分野の専門家から高い評価をいただいています。このような投稿を受け付けている雑誌は、国内にあまり例がありません。



本誌は2016年よりJ-STAGEでの記事公開を開始し、2017年には前身誌「UDC Information」「ドキュメンテーション研究」も含めすべてのバックファイルをJ-STAGEに移行、公開しています。最新の取り組みとして、昨今の新型コロナウイルス危機を受けて在宅勤務が推奨される中、冊子を読覧できない読者の方々も一定数いらっしゃるものと考えられることから、2020年5月号特集「個人情報とサイバーセキュリティ」以降、認証付き記事を期間限定でフリー公開しています。

●J-STAGEご利用のきっかけ、公開当初と現在の状況はいかがでしょうか

国立情報学研究所のCiNii Articlesのサービス終了により、J-STAGEの説明会に参加したのがきっかけです。当初は、サイト情報の登録やXMLデータの作成・アップロードなど、協会内で役割を決めてみんなで確認し合いながら実作業にあたり、初回公開当日はドキドキしながら画面を開き、確認できたときはホッとした記憶があります。本誌は主に国内の会員向け雑誌であり、積極的な海外発信への取り組みは実施していませんが、英文抄録、英文キーワードは登録しています。また、現在グリーンオープンアクセスガイドラインを策定しています。

●J-STAGEの機能、サービスについてはいかがでしょうか

国内最大の電子ジャーナルプラットフォームであるJ-STAGEは、発信力の強化や広範囲で大変役立っています。改善要望は、アクセス統計機能の充実（出力項目にタイトルや著者名などを追加）です。また、関連サービスへの要望として、Pay-Per-Viewと投稿審査システムの2点を挙げたいと思います。当協会は会費が主要な財源であり、会員のメリットを保つために一部記事（特集記事等）にはエンバーゴ期間（6か月）を設けています。非会員に対してはPay-Per-Viewで記事を公開



小野寺氏（左）と南山氏（右）

したいと考えていますが、J-STAGEのPay-Per-Viewシステム利用料が高額なため難しい状況にあります。J-STAGEがオープンアクセス（OA）を推進していることは承知していますが、財政基盤の弱い学協会はすぐに完全OA化を行うことは困難で、それを補う一つの方法としてPay-Per-Viewを検討していることをご理解いただきたいと思います。また、投稿審査システムを利用したいのですが、投稿数のハードルが高くなかなか利用できません。J-STAGEと連携可能なオープンソースの投稿審査システムの導入支援など、工夫次第で小さな学協会でも利用できるようなサービス展開を期待します。

●日本の学協会を巡る情勢への対応、国際展開等、J-STAGEへのアドバイスをお願いします

トップジャーナルについては、J-STAGE自体の国際ブランド力の向上とともに、各分野の学協会誌が海外の研究者からもっと投稿を受けられるように育っていく必要があると思います。商業出版社ではジャーナル毎に広報担当者がつき、統計データから広報戦略を練るような体制が整えられています。J-STAGEで同様のことを行うのは難しいと思いますが、広報のための基礎データやサービス（特定のコミュニティに向けた論文紹介等）を提供することは検討の余地があるのではないのでしょうか。一方、学協会側では、編集委員の国際化、投稿規定などの国際標準化を加速させることが必要だと思います。

また、日本の学協会誌全体の底上げという観点では、前述した要望のようなサービス展開を通じて、基礎となる広報力の強化や業務改善の支援をJ-STAGEに期待します。もともとJ-STAGEの戦略にはトップジャーナルの国際競争力のさらなる強化と日本の学協会誌全体の底上げという二面性があったと思いますので、是非とも、財政基盤の弱い学協会の育成支援もお願いしたいところです。

●最後に、貴協会誌の今後の方針について聞かせてください

現状の特集記事中心の構成は維持しつつも「会員相互の自由な発言の場」をより重視していきたいと考えています。会員投稿型の特集やシンポジウムとの連携など、会員誌ならではの面白さが出せるような、かつ異業種交流の場でありながら、求められる情報やスキルを提供し、INFOSTAの持ち味を活かせる会誌作りを行っていきたくと思っています。

●ありがとうございました。J-STAGEも利用機関の期待に応えられるよう努めてまいります。

J-STAGE 公開・アクセス状況

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.6>

1999年のJ-STAGEサービス開始当初、わずか3誌だった公開誌数は2016年度に2,000誌、2020年1月7日に3,000誌を達成しました。また、2020年3月18日に公開論文数も500万記事を突破し、年々着実に増加してまいりました（図1）。

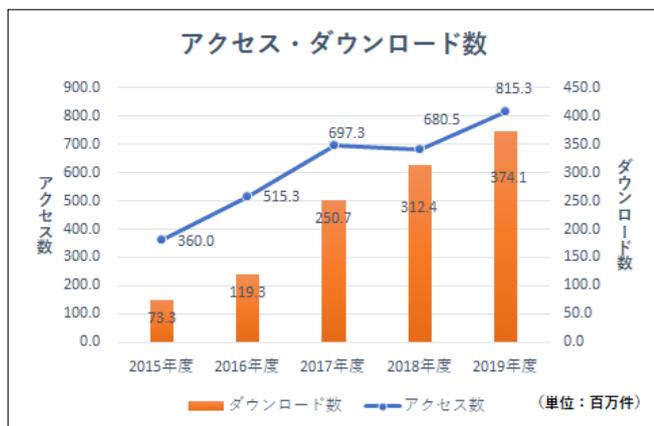


図2



図1

J-STAGEのアクセス・ダウンロード数も増加しており(図2)、2019年度の月間アクセス数は月平均約6,800万でしたが、2020年5月には1億を超えました。



お知らせ、届いていますか？

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.7>

J-STAGEでは不定期に発行機関へメールをお送りしていますが、そのメールは届いておりますでしょうか。メールの内容は、イベント情報等の案内から各種調査の依頼まで多岐にわたっています。これらのメールが届いていない場合は、発行機関連絡先情報が更新されているかどうか確認をお願いいたします。

J-STAGE「この資料について (About the journal)」頁の発行機関情報の登録内容をご確認ください。この情報はJ-STAGEからの各種連絡のほか、閲覧者から発行機関への連絡先としても利用されています。必ず最新の情報に更新していただきますようお願いいたします。

「発行機関連絡先情報の登録・変更・削除手順」

- 編集登録システムにログイン
URL : <https://www.jstage.jst.go.jp/edit/>
- 編集登録系TOPの「サービス管理」をクリック
- ページ上部のグレーで網掛けされている「資料情報管理」をクリック
- 表示されている貴誌ジャーナルの右側にある、「編集」を選択
- 上から5段目、「発行機関連絡先情報」をクリック
- 発行機関連絡先情報を更新→画面下部の登録をクリック
・編集登録システムのID、パスワードがご不明な場合、下記へお問い合わせください。

J-STAGEセンター : center@jstage.jst.go.jp

J-STAGE「この資料について (About the journal)」画面



My J-STAGEの便利な機能について

<https://doi.org/10.34344/jstagenews.2020.43.8>

「My J-STAGE」は、J-STAGEをより効率的にお使いいただくための無料アカウントサービスです。機能の一例を紹介いたしますので、是非ご利用ください。

●お気に入り記事アラート機能●

追加情報アラート：

記事に新しい情報（修正等）が追加されたときにメールでお知らせが届きます。

被引用アラート：

J-STAGEに載っている記事の著者本人が、自分の記事をお気に入り記事登録し、被引用アラートを設定すれば、自身の記事に引用がついたときにメールでお知らせが届きます。

認証解除アラート：

エンバーゴなどで認証がかかっている記事に設定しておけば、認証が解除されたときにメールでお知らせが届きます。

●お気に入り検索機能●

検索する条件を保存できる機能です。ある特定の研究を行っていて、何回も同じ複数の条件で絞って検索をしている方などに便利です。検索条件は、最大5パターンまで登録できます。

詳しくご利用方法については、こちらをご覧ください。

閲覧者向けヘルプ：

https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/MyJstageHelp/_char/ja



編集後記

●コロナ感染の影響からJ-STAGEニュースの発行が遅くなりましたが、本号はテレワークで編集委員会を開催し、作成・出版しました。今後、J-STAGEニュースで取り上げてほしい話題やシリーズものなど、みなさまのご意見を募集します。

jstage-gakkai@jst.go.jpまでお寄せください。（Y.M）

●本号よりJ-STAGEニュースのフォーマットを刷新しました。今後も、読みやすく見やすい紙面を目指して編集して参りますので、よろしく願います。（Y.K）

●本年2月13日に開催した「J-STAGE20周年記念シンポジウム」の開催報告を作成いたしました。是非こちらをご覧ください。

https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_20thsymposium_report.pdf（K.O）

2つのTwitterを、ぜひフォローをしてください！

◆JST公式Twitter (@JST_info) https://twitter.com/JST_info
プレスリリース・募集案内・イベント情報などをお届けします。

◆J-STAGE公式Twitter (@jstage_ej) https://twitter.com/jstage_ej

J-STAGEニュース No.43 2020年7月1日発行

編集発行：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

情報基盤事業部 研究成果情報グループ

〒102-8666

東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ

電話：03-5214-8837（ダイヤルイン）

E-MAIL：contact@jstage.jst.go.jp